

産学連携への期待

平成25年10月

経済産業省大学連携推進課
佐藤 文一

これまでの産学連携と主な課題



共同研究は :

- ✓ 数量的には拡大
 - 大企業との共同研究が中心
 - 1件あたりの契約金額は少額
- ✓ 研究室の研究費には貢献
 - 大学の収益にはつながらない

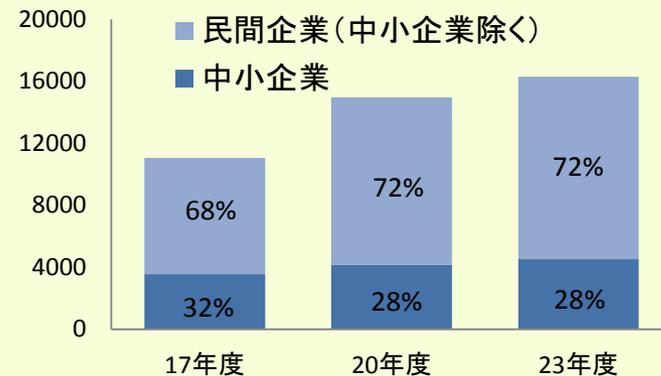
特許は :

- ✓ 量的には拡大
 - 活用率は依然として低い

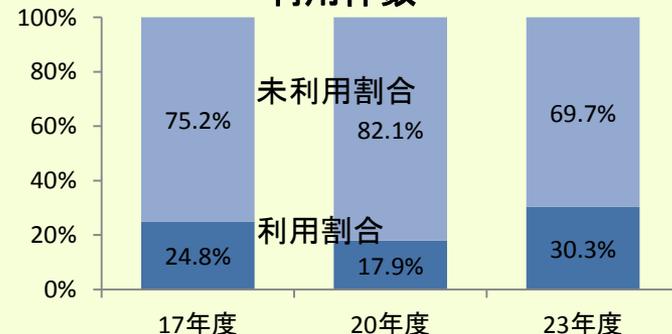
人材育成は :

- ✓ カリキュラムは次第に多様化
 - 基本的には大学主導

産学共同研究における中小企業の割合

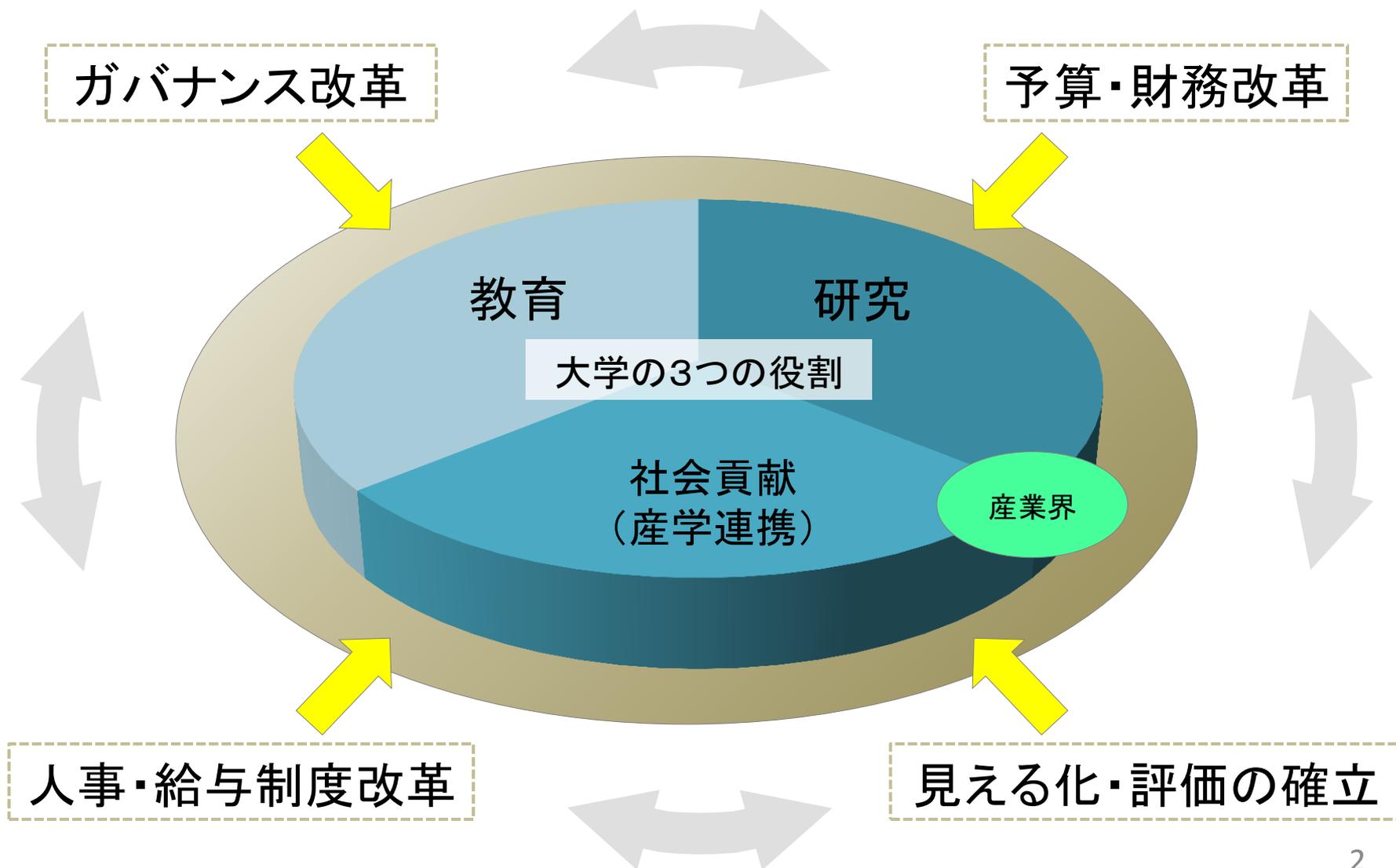


教育・TLO・公的研究機関等の特許の利用件数



資料:文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」
特許庁「特許行政年次報告書」より経済産業省作成

大学への期待





10年後の産学連携への期待

【10年後の夢】

✓ 大学は :

- ① 「基礎研究・基本原理の探求、指導」、「人材育成」、「技術が交わる場の提供」など、イノベーション創出の重要な担い手組織として、活発に社会に貢献
- ② 各職員が、自らの適正・資質に応じて、研究、教育、産学連携の面で、社会と大学に貢献
- ③ 企業への営業活動を積極的に行い、技術移転、技術指導などの成果を生み出し、自主的な財源を確保、研究・教育活動を一層活発化

✓ 企業は :

- ① 新しいビジネスに対する夢を提示し、その実現に必要な技術の目利き力を強化(中小企業では、公設試等の支援も重要)
- ② 大学を、イノベーション創出の真のパートナーとして認知し、協働で、研究活動や人材育成を本格的・積極的に実施
- ③ 技術開発と市場開拓を一体的に行い、グローバルな市場の中で成長と革新を実現